

第3章 学校・園での取り組み

1 現状と課題

保育園・幼稚園では絵本（本）やお話に触れることを大切にし、毎日、絵本（本）に触れる機会を設けたり、園の貸し出し絵本をとおして、家族読書の機会を提供したりしている。

保護者に読み聞かせの大切さを知らせるとともに、絵本（本）好きな子どもの育成に取り組むことが重要である。

学校における読書活動は、国語科を中心に学力や人間関係構築の基盤ともなる「言葉の力」の育成に向けた取り組みも学習活動の中で行っている。また、「朝読書」や読書週間、読書月間などの全校一斉の読書活動や図書だよりをとおして読書活動を推進している。しかし、小学校高学年から中学校にかけて読書離れの傾向が顕著である。

これを改善するためには、読書活動の楽しさを知らせ、自立した読書活動につなぐ指導とともに、学校図書館の充実・整備や家庭・地域、公共図書館との連携を図ることが大切である。

2 施策の方向

(1) 絵本（本）への関心を高める。

ア 絵本（本）の充実を図り、生活と結びつける工夫をする。

(ア) 発達段階や興味・関心にそった絵本（本）を整える。

(イ) 保育士、教諭・保護者などによる読み聞かせ、紙芝居、ストーリーテリング^(※1)・ブックトーク^(※2)等を進める。

イ 「絵本の部屋」、「図書室」を親しみのもてる雰囲気にする。

ウ 障害のある子どもに配慮した環境を整える。

(2) 家庭との連携を図る。

ア 家庭でも読み聞かせや読書が行われるよう、機会をとらえて働きかける。

イ 保護者を対象に、読書活動の楽しさと大切さについての啓発や研修を行う。

ウ 読書活動に関する行事や催しへの参加を促す。

エ 園だより・図書館だよりなどを通して、保護者の読み聞かせや読書活動への理解と関心を深める。

オ 子どもの生活リズムが向上することを目指し、テレビ、ゲーム、インターネット等の時間を減らす取り組みを、家庭に働きかける。

(3) 地域との連携を図る。

ア ボランティアグループや図書館職員と協力しておはなし会やブックトークの充実を図る。

イ 公共図書館と連携し、図書の実を充実を図る。

(4) 学校においては読書活動に誘う工夫をする。

ア 学校独自に、読書活動推進期間を設定したり、「朝読書」を奨めたりするなどの読書活動を進め、読書習慣の形成を図る。

イ 児童・生徒の読書を推進する委員会活動の活性化を図る。

ウ 年間指導計画を見直し、図書室を活用する時間の充実を図る。

(5) 学校図書館の整備を進め、運営の充実を図る。

ア 魅力ある資料をそろえ、情報拠点としての機能を高める。

イ 学校司書を適切に配置する。また、学校司書と司書教諭は、適切な連携を図り、読書活動の充実を図る。

<用語解説>

(※1) ストーリーテリング

話し手が、おはなしや物語を覚えて、本なしで聞き手に語って聞かせること。

(※2) ブックトーク

読書を起こさせる目的で、あるテーマに沿って、複数の本の内容を紹介すること。